

第1回小松空港ターミナルビル基本構想検討会議

令和7年8月7日

石川県 企画振興部 交通総合対策監室

空港企画課

基本構想の策定趣旨とイメージ

基本構想の策定趣旨

- ・北陸新幹線敦賀開業や更なる国際化の進展といった環境の変化を見据え、将来の小松空港のあり方を示す中期ビジョンを策定(令和7年3月)。
- ・中期ビジョンにおいて、将来の展望を開く新たな取り組みとして、ターミナルビルの機能強化(ビルの改築)や、空港運営等への民間活力・知見の導入等に取り組んでいく方向性が示された。
- ・今年度は、この方向性に即した取り組みを着実に進めるため、ビルの機能強化や民間活力の導入について、具体的なあり方を整理することを目的に、小松空港ターミナルビル基本構想を策定する。

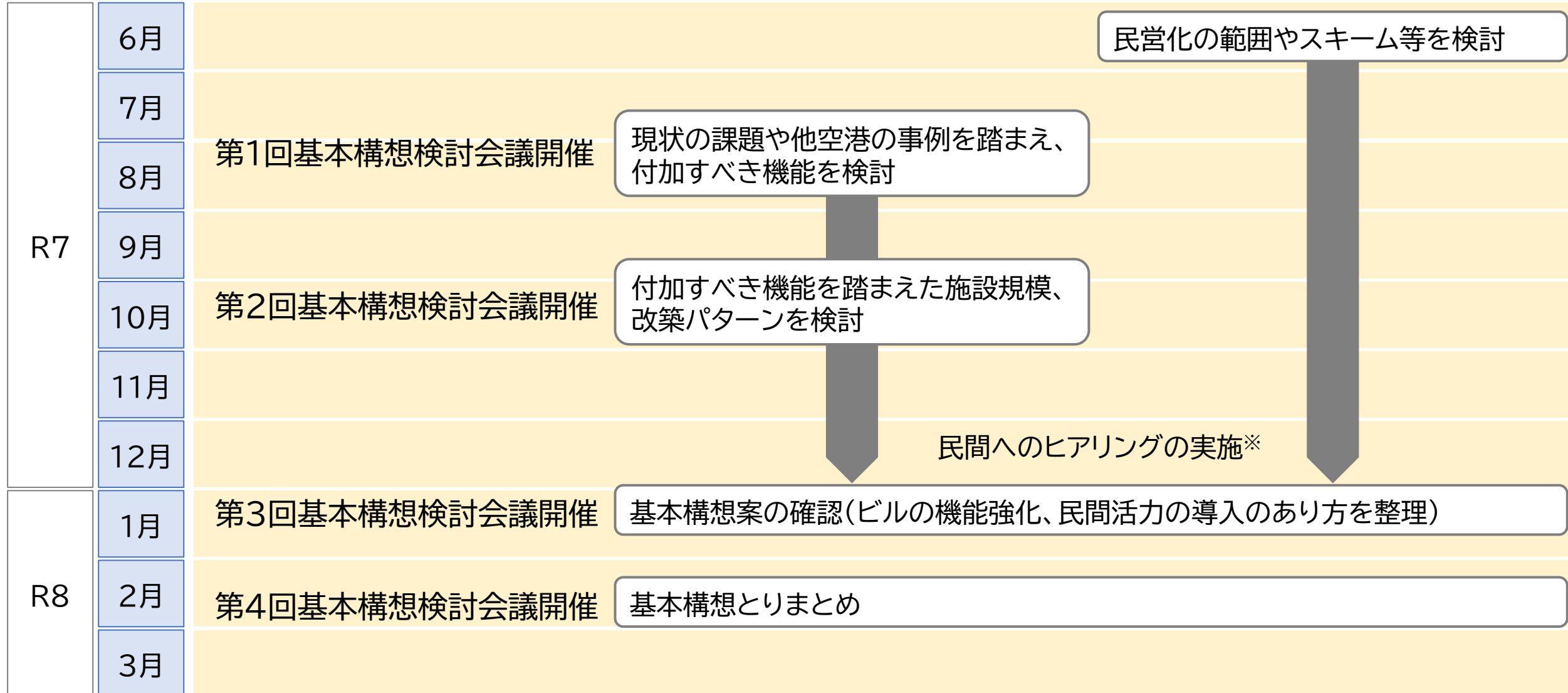
基本構想のイメージ

項 目	検討・整理する事項
ビルの機能強化	○新たに整備すべき機能を整理 ・航空旅客の利便性向上のための機能、地域の賑わい創出のための機能 ○上記を踏まえた整備概要を、複数パターン(増築した場合、建替えした場合等)で整理 ・施設全体における大まかな機能配置やゾーニング ・工事手法、工期、概算工事費
民間活力の導入	○共用空港である小松空港における民営化のあり方を整理

策定スケジュール

ビルの機能強化
主に基本構想検討会議において検討・整理

民間活力の導入
主に県と国交省で連携して検討・整理



※ビルの大まかな仕様、整備費、空港運営に係るスキーム等を提示し、意見聴取。民営化にあたっての課題を整理。

小松空港中期ビジョンにおいて示された『小松空港の目指す将来像』を実現する上で、求められるターミナルビルの機能強化について、以下の観点から議論

将来像 世界とつながり、地域を支え、多様な交流を生み出す日本海側の拠点空港

議題1 空港利用者の利便性、快適性を高める上で必要な機能強化の内容

現状のターミナルビル等空港施設における課題を抽出し、必要な機能強化の方向性を整理する。

議題2 空港を核とした賑わいの創出を図る上で必要な機能強化の内容

航空利用者はもとより、地域住民をはじめ多様な人々が空港に出向き、空港での滞在を楽しめる環境を整える上で必要な機能強化の内容を検討する。

- 現状の空港施設における課題について、空港で業務を実施する関係機関等に聞き取り調査を実施。
- 調査の結果得られた課題のうち、施設の整備等を要する中長期的な課題について、必要な機能強化の方向性を整理。主なものは下記のとおり。

施 設	課 題	機能強化の方向性
国際線エリア		
チェックイン カウンター	【カウンター前待機エリア面積について】 ・エリア面積が狭隘(待ち行列が長くなると視覚障害者用タイルを跨ぎ、カウンター前を通行する旅客を妨げる)。	・将来需要予測を踏まえた施設規模の確保
	【カウンター内業務エリア面積について】 ・エリア面積が狭隘(チェックイン後は預入手荷物で溢れ、職員の移動が妨げられている)。	・将来需要予測を踏まえた施設規模の確保
	【預入手荷物の検査について】 ・手荷物検査後にチェックインし、預け入れる現状の流れは、保安保全上の課題がある(検査後からチェックインまでの保安が担保されない)。 ・オンラインチェックインを導入していても、手荷物検査で並ぶ必要が生じ、利便性が低い。	・インラインスクリーニングの導入検討

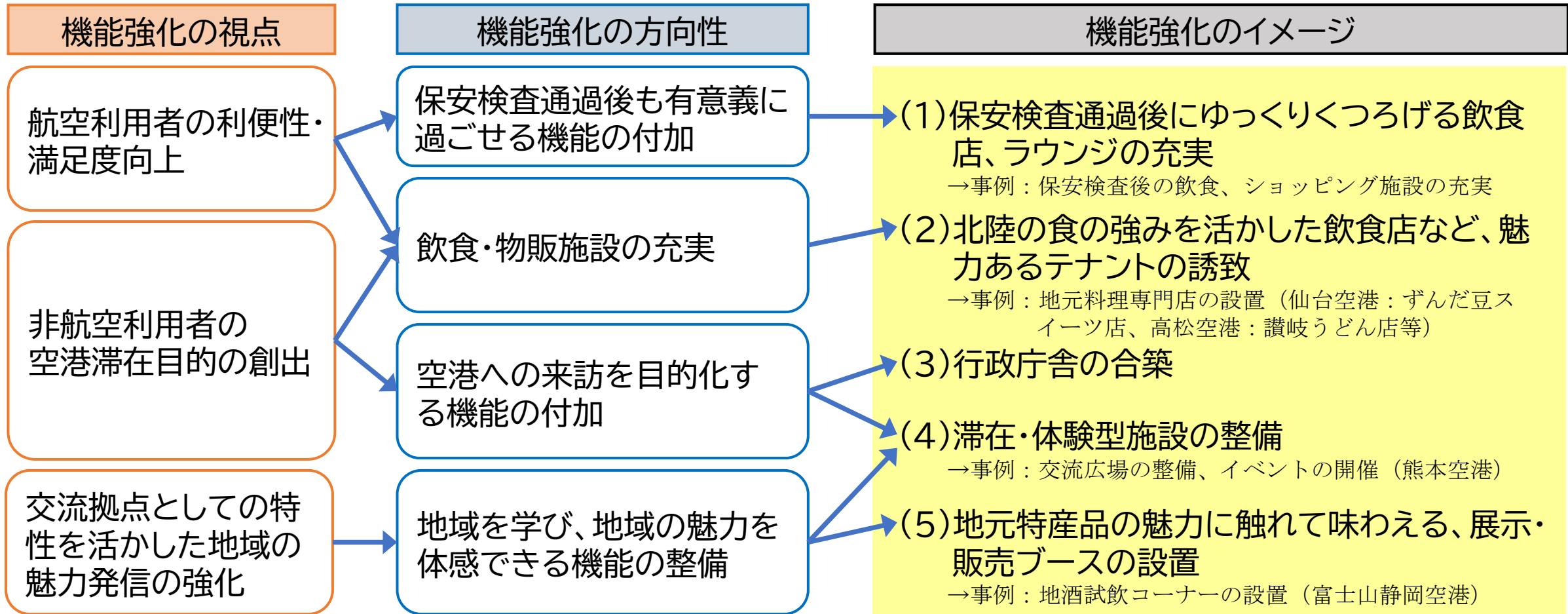
※インラインスクリーニング:チェックイン前での手荷物検査を行わず、チェックイン後にベルトコンベアで自動で手荷物検査を行うシステム

施 設	課 題	機能強化の方向性
国際線エリア		
保安検査場	・2便輻輳時、1レーンで処理しきれず、長蛇の列となっている。また、検査場スタッフが足りず、定時運行の確保のため、航空会社社員がフォローすることがある。	・保安検査レーンの増設 ・混雑緩和、職員の省力化を図るための設備（スマートレーン）の導入検討
出国待合室	【エリア面積について】 ・エリア面積が狭隘（2便輻輳時、利用者がすれ違えないほど混雑する。椅子が少なく、優先席を必要とされる利用者が利用できない）。	・将来需要予測を踏まえた施設規模の確保、設備整備
	【チェックイン後の施設について】 ・飲食店やラウンジがなく、チェックイン後にゆっくりくつろぎたいというニーズに応えられていない。遅延発生時に、食事をとることが出来ず、不都合。	・チェックイン後の施設の充実
到着手荷物受取所（バゲージクレームエリア）	・エリア面積が狭隘（2便輻輳時に相当な混雑となる）。 ・ターンテーブルが1つしかなく、2便輻輳時に後着の旅客は、長く待たされる。また、サイネージ等がなく、どちらの便の荷物が取り卸しされているか判別できない。 ・手荷物破損やロストバゲージ対応のカウンターがない。	・将来需要予測を踏まえた施設規模の確保や施設整備

施 設	課 題	機能強化の方向性
国際線エリア		
CIQエリア	【エリア面積について】 ・エリア面積が狭隘(2便輻輳時、利用客は長時間並ばされ、幼児、お年寄り、お手伝いが必要な旅客の優先レーンがない)。	・将来需要予測を踏まえた施設規模の確保
	【整備が求められる設備】 ・円滑な取締等の実施のため、次の設備整備が求められる。 <検疫>感染症が疑われる者と一般客を区別した移動導線、陰圧室など <動物検疫、植物防疫> 違反者に対して聴取・警告を行う部屋、輸入動物の隔離検査室、探知犬待機室など <入国検査> 審査・事情聴取を行う部屋、上陸拒否(退去命令)となった場合の待機施設(現状1部屋しかなく、シャワー室がない)	・円滑な業務運営に必要な設備整備
飲食・物販施設	・飲食店が少なく、営業時間が短い ・北陸らしい飲食店(寿司や海鮮など)がない(旅行の最後に何か食べていこうというワクワク感がない)。 ・コンビニがなく、利用客、従業員にとって不便	・地元の特色を活かした訴求力のある施設の整備、ニーズを踏まえたテナントの誘致

施 設	課 題	機能強化の方向性
ビル施設全般		
	【建物の老朽化】 ・竣工から約40年が経過し、内装、給排水施設や外構施設の老朽化が進行している。 ・将来の大規模改修時に「つり天井」の改修が必要である。	・改修、建替え。
	【バリアフリー設備について】 ・エレベーターが国際線側に1機しか設置されていない。	・バリアフリーに配慮した施設整備の実施
ランプエリア		
	【小型プロペラ機(福岡便)の乗降について】 ・旅客はランプエリアを徒歩で移動するが、雨天時は傘を差さなければならず衣服・手荷物が濡れる。また、段差がありバリアフリーとなっていない。	・蛇腹式エプロンルーフの導入等、小型プロペラ機の乗降時の利便性改善に向けた施設整備
二次交通		
	【構内道路の導線について】 ・国内線駐車場が複数箇所あり、出口も2箇所あるため、導線が複雑で分かりづらい。	・分かり易い導線の確保
	【その他】 ・駐車場からビルまでの雨除け対策が限定的であり、荒天時に利用者が濡れてしまう。	・歩道ルーフの増設等を検討

- 小松空港が、航空利用者はもとより、地域住民をはじめとした非航空利用者の来訪を促し、地域の賑わい創出の拠点として進化する上で、必要な機能強化の方向性とイメージを次のとおり整理



(1) 保安検査通過後にゆっくりくつろげる飲食店、ラウンジの充実

- 現状の国際線エリアには、保安検査通過後の出国待合室に、飲食店やラウンジが設置されておらず（免税売店のみ）、保安検査通過後の時間を有意義に過ごすための施設が不足している。
- 熊本空港では、保安検査後も搭乗直前まで時間を気にせず楽しめるよう、国内線・国際線共用の滞在型ゲートラウンジを整備。小松空港においても保安検査通過後の施設の充実を図ることで、旅客の満足度を向上できる余地がある。
- 一方で、飛行機を利用しない者も利用できる保安検査通過前の施設も重要であり、保安検査前後でのバランスの取れた施設整備が必要。

他空港事例(熊本空港)



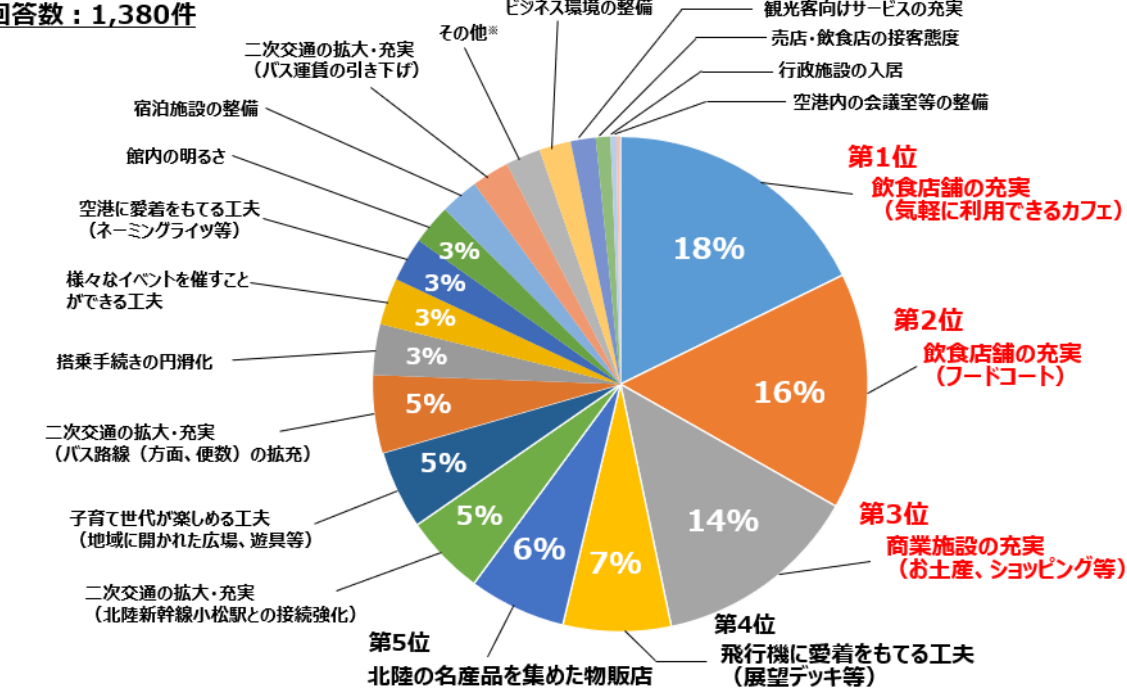
2023年3月の供用開始された新旅客ターミナルビルは、保安検査後に滞在できるエリアを大幅に拡張し、搭乗直前まで時間を気にせず楽しめる内線共用の「滞在型ゲートラウンジ」を導入。
(出典:熊本空港HP)

(2)魅力ある施設の整備、テナントの誘致

- 令和5年に実施した小松空港アンケート調査においては、ビルに期待することとして、約半数が飲食店・商業施設の充実をあげている。他空港では、ご当地の特色を活かした店舗設置例が多くあり、小松空港でも、寿司や海鮮など、北陸ならではの食の強みを活かした店舗展開が考えられる。
- また、コンビニ等の設置を求める意見が多く寄せられており、利用者の利便性向上につながる店舗の誘致が求められる。

＜小松空港アンケート調査結果＞

※回答数：1,380件



＜その他の意見＞

コンビニの新設 (多くの意見あり)、無料駐車場の整備、建造物としての魅力、充電環境の改善、就航先の新設・増便、ラウンジの充実、店舗の営業時間拡大、プライオリティパスの利用環境改善、足湯 (入浴施設) の設置 等

＜ご当地ならではの店舗展開例＞



全国の多くの空港で、ご当地グルメを堪能できる店舗が設置され、旅行の最後に、当地ならではの食を味わいたいという旅行者ニーズに応えている。(出典:各空港HP)

(3)行政庁舎の合築

- 中期ビジョン検討会議において、ターミナルビルへの行政庁舎の合築を提案する意見あり。
- 行政庁舎の合築は、航空利用者以外の者が空港に来訪し、空港内店舗の利用など、空港の賑わい創出も期待される。
- 一方で、空港への行政庁舎の合築の事例は、全国でのと里山空港の1件のみ。
- 小松空港において合築を行った場合の効果や影響について精査していくことが必要。

<のと里山空港における行政庁舎の合築について>

のと里山空港においては、以下の観点から行政庁舎の合築を実施

- ・奥能登どの市町村からも30分程度でアクセスでき、住民の利便性向上が期待できる
- ・行政センターと空港ビル施設の合築により、整備費、維持管理費の縮減が図られる
- ・駐車場、飲食部門の共用が図られる

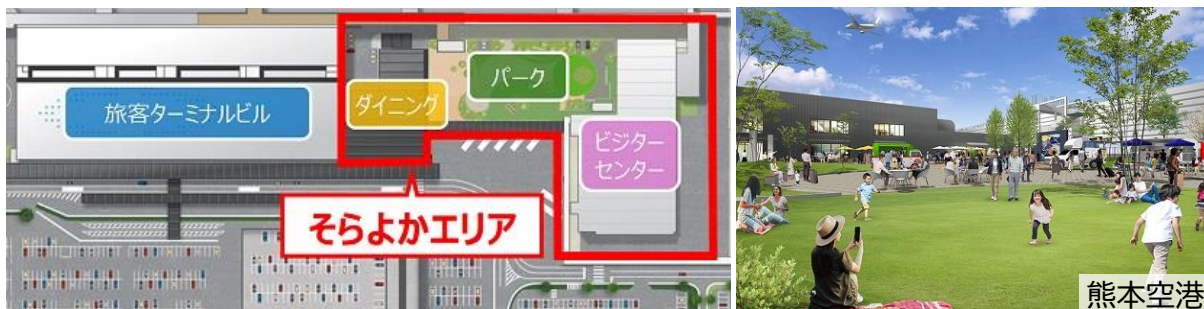
<行政庁舎の合築にあたって検討すべき事項>

- ・合築による行政庁舎利用者の利便性の変化
- ・行政事務の遂行にあたっての支障の有無
- ・施設の所有や施設整備にあたっての負担のあり方
- ・行政庁舎の必要な施設規模、駐車場の利用台数
- ・今後、民営化を進めることとした場合、合築による民間参入への影響(民間が合築を敬遠しないか) 等

(4) 滞在・体験型施設の整備

- 空港における滞在・体験型施設の整備は、航空利用者以外の者の空港への来訪による賑わい創出や、空港の収益多様化が期待される。
- 整備に当たっては、潜在的な需要を踏まえた経済性(施設整備による便益(空港全体の集客力・収益力の向上等)とコスト)等を踏まえた検討が必要
- 周辺施設の状況や周辺施設との連携も重要な視点であり、具体の整備にあたっては、民間の知見を最大限活用することが有効であると考えられる。

<交流の場・学習機会の提供>



「訪れる全ての人が楽しめる空港」を目指して、ダイニング、パーク、ビジターセンターからなる「そらよかエリア」を整備(2024.10開業)。

パークでは、週末を中心にイベントを実施し、「空港に遊びに行きたい」という機運の醸成を図っている。

ビジターセンターにはSDGsを学べる体験施設を、仮設の旅客ターミナルビルをリノベして設置(2025.5)

出典:熊本空港HP

<空港利用者の憩いの場の提供>



鹿児島空港には、誰でも気軽に温泉気分を味わえる国内空港初の天然温泉足湯が整備され、温泉王国鹿児島をPR。

富士山静岡空港には、滑走路にせり出す形の円形の展望デッキが整備されている。併設の休憩スペースでは、お茶とコーヒー(無料)のおもてなしを実施。

出典:鹿児島空港HP、富士山静岡空港HP

(5) 地元特産品の魅力に触れて味わえる、展示・販売ブースの設置

- 国内外の旅客が行き交う交通結節点である空港は、北陸・石川の魅力発信拠点としての役割が期待される。
- 他空港では、地元特産品をPRするため、特産品を試飲できるコーナーや専門店を設置する事例がある。
- 小松空港においても、石川の強みである伝統工芸品や日本酒、和菓子などに関する施設の整備等が考えられる。

地元産品のPRブース(富士山静岡空港)



静岡県の魅力を発信するショールーム。日本酒、ワイン等の有料試飲コーナー設置 出典:富士山静岡空港HP

特産品の専門店(松山空港)



特産の愛媛のみかんをPRする「Orange BAR」や、今治タオル公式ストアを設置。蛇口からオレンジジュースが出てくる蛇口も。 出典:松山空港HP

(参考) 小松空港ターミナルビル概況

- 現在のターミナルビルは国内線部分は昭和56年、国際線部分は昭和59年に供用が開始され、旅客数の拡大に合わせ、順次スペースの拡張や機能の充実化を図ってきた。

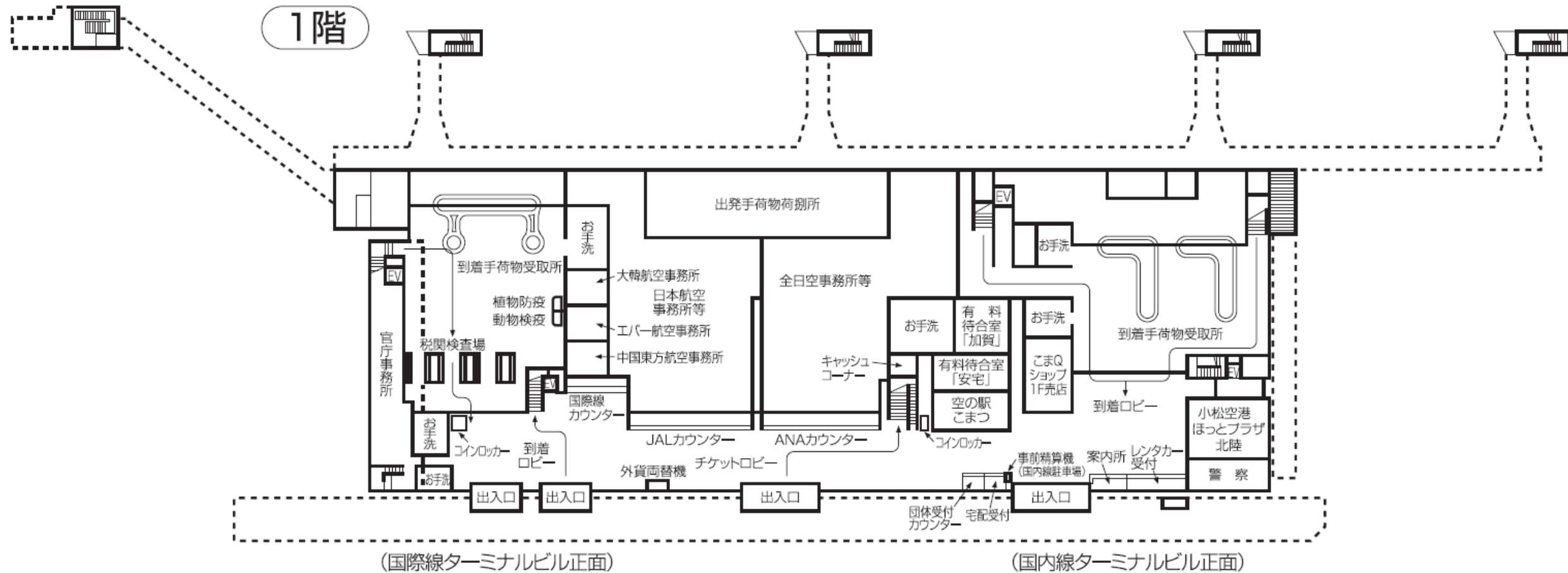
区 分	国内線	国際線
面 積	15,438㎡	7,902㎡
構 造	鉄骨造 3 階建 (一部 4 階建)	鉄骨造 2 階建 (一部 3 階建)
供用開始	昭和56年9月	昭和59年4月

国内線の主な増改築工事	
昭和58年度	VIP室および有料待合室等の増設
昭和61年度	ダブルトラック化（日本航空の受入れ）に伴う、ロビーの拡張、チケットカウンター等の新設、ボーディングブリッジの増設等
平成元年度	ボーディングブリッジの増設
平成4・5年度	旧日本エアシステム(JAS)カウンター・事務室の新設、旅客案内カウンターの新設等

国際線の主な増改築工事	
平成6・7年度	利用者増に伴う、出入国検査ブースの増設、免税売店の拡充等
平成25年度	利用者増に伴う、待合室の拡張、免税売店の拡充、ボーディングブリッジの増設等



(参考) 小松空港ターミナルビル1階平面図



(参考) 小松空港ターミナルビル2階平面図

